（1） 主題名　正義感　〔中学校４－（４)〕　関連項目〔４－（２)・(３)〕
（2） ねらい　正義を重んじ、よりよい社会の実現に努める態度を育てる。
（3） 資料名　「路上に散った正義感」（出典：自分を考える２　暁教育出版）

資料の概要
路上で強盗犯人を取り押さえようとした大学生が，逆に刃物で刺され死傷したという実際に起きた事件を最初に紹介している。それに対する新聞社の社説と女子高校生の投書を取り上げ，正義感についてのそれぞれの主張を紹介している。最近の社会情勢を反映し，生徒にも社会の一員として問題提起を行い考えさせる資料である。

（4） 学習指導過程

	学 習 活 動	主な発問と生徒の心の動き	留 意 点
導入	1　教師が事件について話す。	○最近の犯罪事件について話をする。 （例）銀行強盗を通行人が捕える等	○クラス実態に合わせて話をする。
	2　生徒に場面を想定させる。	○そんな場面にいたらどうするか。 ・大声で叫ぶ，助けを呼ぶ ・じっと静かにしてる	○判断理由も簡単に添えて発表させる。
展開	3　資料前半を読む。	○事件概要と社説の部分を読む。	○Ｐ６６までを読む
	4　事件の感想を発表する。	○この事件に対してどう思いますか。 ・父は息子を失いすごく悲しいだろう ・勇気ある行動をとれた青年はすごい ・正しいことをして命を失うのはおかしい ・新聞の社説は少し冷たいと思う	○第三者の無責任を押さえ社説記事との類似性に気付かせる。
	5　資料後半を読む。	○女子高校生の投書の部分を読む。	○資料の最後まで読む。
	6　女子高校生の思いを考える。	◎女子高校生はどんな思いで投稿したのだろう。 ・助け合わない社会を嘆いている ・死を無駄にしたくない ・誠実な人が損をする社会を変えたい	○切り返しの発問 「命を懸けてまで正義感を発揮してはいけないのか」を適宜投げ入れる。
	7　自分と重ねて考える。	○「正義感，路上に散る」で終わらせないために君にできることは何だろうか。 ・無視をせず相手の立場で行動する ・状況判断し無理なら他に助けを求める ・逃げても困った人を見捨てない	○かかわる力をもつという視点を大切にする。
終末	8　教師の説話	○社会に対し展望の見える話をする。 （例）譲られた浮き輪 新大久保駅日韓青年の話など	○時間があれば感想を書く。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

生徒がテレビや新聞で見る社会の姿には，犯罪に関するニュースも多い。社会に対しての興味や関心が高まる時期でもあり，正義感をもって生きていくこと，正しいことが通る社会を創ることは大切だということを学ぶ意義は大きい。

これは生徒が毎日の生活のほとんどを過ごす学級においても同じであり，自分の生き方にかかわってくることにも気付かせることのできる資料である。

２　指導過程の工夫

資料でより深く考えさせるために，導入において最近の犯罪事件を例に出し触れていった。生徒にはそんな場面にいたらどうするかを問いながら，資料を読む時に自然に自己と重ねて考えられるように導いた。

展開は資料を分割提示し，前半では第三者の無責任さを明確にさせ，社説記事との類似性に気づかせながら，後半の女子高校生の思いをしっかりと受け止められる流れを作った。

終末では，自己と重ねながら自らの生き方を考える形で終えるとともに，社会への明るい展望が持てるような教師の説話を設けた。

３　発問の工夫

前半では生徒の感想を発表させる中で，そこに表れる生徒の事件に対する感情や価値観を押さえながら，より多くの発言を引き出していった。特に，生命尊重を重視した価値で終わらせず，社会全体を考えての正義感へと深めるための切り返し発問も準備した。

４　生徒の反応

「正義感をもって助けようとすぐ行動したのはすごい」と「正義感でやっても殺されては…。」という双方の意見が出されたが，その比率は前者が８割，後者が１割であった。切り返しの発問には考え込んだ様子だったが，「正しいことが通らなくなる社会はいけない」という思いから，「勇気を持ってなんとか対応すべきだ」という意見が出された。そして，女子高校生の思いを真剣に受け止め，自分と重ねて「小さなことでも見て見ぬふりをしない」「いじめなど注意していく」「困った人がいたら助ける」など自分にできることを行動化しようと考えていた。

５　授業後のフォローアップ

帰りの会等では，犯罪事件に巻き込まれない指導はしてきたが，社会全体を考えて行動することまではなかなか難しかった。この授業後は，まずは身近な学級という小さな社会でも正義が通っているかを問いかけている。「心のノート」（Ｐ９４）にある「この学級には正義があるか」を活用しながら考えたクラスもある。秋の修学旅行では，学校を離れ，社会に触れ，自分たちの行動が問われる場面もある。仲間と共に学級という社会でも正義が通る状況をつくっていきたい。　　（加茂中学校）